長岡工業高等専門学校研究紀要　第42巻　第1号（2006）

論　文

ブログを使用した英語ライティング活動：夏休み課題に関するアンケート調査

大湊佳宏[1]・茅野潤一郎[2]

[1,2]一般教育科－英語（Liberal Arts-English, Nagaoka National College of Technology）

AN ACTIVITY OF WRITING ENGLISH DIARIES ON WEBLOG SITES: A SURVEY ON THE STUDENTS' REFLECTIONS OF THEIR HOMEWORK ASSIGNMENT DURING THEIR SUMMER VACATION

Yoshihiro OMINATO [1] and Junichiro CHINO [2]

Abstract

Computer-mediated Communication made it possible to bring an authentic environment of using a second language learners' target language in their classroom. It is also true that there are many opportunities to interact not only with native speakers (like ALTs) but also with their classmates who are also learning the same target language. The present research focused on an English writing activity, which was assigned to 130 sophomore students at Nagaoka National College of Technology (NNCT) during the summer vacation in 2005. 33 of them chose to do it on their blog site through the Internet so that their classmates were able to check what they were doing and, hopefully, interact with each other during their summer vacation. A survey was carried out among those 33 students about the assignment. Most of them were able to build up their confidence for what they have done, increase the chance of using dictionaries, and enjoy writing on their blog sites. However, the result did not show that this activity would strengthen the relationship among the participants.

***Keywords**: blog sites, writing, diaries, survey, confidence*

1．序論

平成 17 年度の文部科学省調べでは，日本の公立学校のインターネットへの接続率は小学校で 99.7%，中学校で 99.9%，高等学校で 100.0%と報告されており[1]，効果的なインタラクションを行う場など，外国語授業へのより効果的な活用方法が期待される．

インターネットを使用して，本校で昨今，個人的に Web 上にブログ・サイトなるものを設けて，毎日情報を発信・交換している学生がいるという話を聞き，筆者もその学生の助けを借りブログ・サイトの開設を試みて，その手軽さ，情報発信をできる喜び，情報やコメントを受け取れる楽しみなどを感じた．そして，何とかこれを英語のライティングの活動に応用できないかという思いにいたった．本研究では，ブログ・サイトを，手探りではあるが，英語のライティング活動の一部としてどのように活用したのかを紹介し，その後の参加者の反応をアンケート調査

を用いて，英語の学習面，ブログの特徴を活かせるのか，そしてクラスメート間の人間関係の構築に関する面でどのような反応を見せるのかを調査したものである．

2．先行研究

2．1 背景

第二言語習得理論の研究におけるライティングの研究は，1970 年代から 1980 年代において，コミュニケーション中心の，読み手が理解できる文章が書けるかどうかが大きな課題となっており，現在では，何度も英作文を書き直させる Process Approach や，書くものによって「特有な書き方」を学ばせる Genre-Process Approach が提唱されている [2]．Process Approach における英作文の訂正や編集は，コンピューターの登場により効率よく行われるようになった．また，第 2 言語習得は目標言語の native-speaker (NS) と non native speaker (NNS)の間で行われるインタラクションを通じて効果的に行われるとし（インタラクション仮説）[3]，Long は，第 2 言語習得のためには本物の（authentic）環境でのインタラクションを行うことが重要な役割を果たすと明言している [4]．しかしながら，外国語を効果的に学べるのは，目標言語の NS からのみなのであろうか．Lightbown and Spada [5] は，teacher-centered の教室環境よりも，同じレベルの学習者の集まったグループワークで彼らはより頻繁に発話をすると報告している．同時に，上級者や NS と会話をしているときよりも，同じレベルの学習者のグループで話をしているときの方が error は少ないとも報告している [5]．すなわち，NNS 同士の活動では，エラー修正は頻繁には行われないが，発話量は増える可能性が大きい．

ライティング活動を行う際，読み手を想定したライティングを意識させることは重要であろう．単に教師に向けた「学校向け」の作文ではなく，自分の身の回りに起きた事柄を，他のクラスメートやブログの読者に読んでもらいたいと思う気持ちから書けるのではないだろうか．井ノ森は，高校での英作文の授業では，読み手は教師だけではなく，クラスメートも含むのだと主張し，「読み手を意識した」ライティング活動を推奨している [6]．人は日記や手紙や詩など，ものを書くときに，2 つの作業を同時に行う．それは “think out something”（なにか[アイデア]について考えること）と “writing it down”（それを書き出す）ことであり，教師の役割はその学習者の考え出した，頭の内側にある “inner speech” を上手く外側に出してあげることである [7]．ブログ・サイトを開設し，何か情報を発信する活動を与えることは，その手助けの活動となるのではないだろうか．

2．2 ブログの定義

ブログとは「狭義には World Wide Web(Web)上のウェブページの URL とともに覚え書きや論評などを加え記録(Log)している Web サイトを指す」が，現在では「作者の個人的な体験や日記，特定のトピックに関する必ずしも Web に限定されない話題などのような，時系列で比較的頻繁に記録される情報についての Web サイト全般」を指すことが多い [8]．

2．3 ブログの利点

学習者が電子メールを交換する研究の中で，文字だけでコミュニケーションを行うと感情などが伴わずに，意図していることが伝わらず誤解が生じてしまう恐れがあることが指摘されている．掲示板などでしばしば起こる「フレーミング」と呼ばれる現象（ネットワーク上で起こる攻撃的な言い方の応酬）と似て，これはネットワーク上でコミュニケーションを行おうとしている相手の表情，声のトーン，社会的地位，年齢などの「社会的な手がかり」が乏しいために起こる現象だといわれている [9]．これを解消するため，「顔文字」が多く使われてきた．アメリカでは横型の絵文字，例えば :-)（スマイル）や:-p（舌を出した表情）など，多くが使われている．日本ではこれを右 90 度に傾けたもの，例えば（^_^），(^0^)／ など携帯電話の普及も手伝い，数多くの創造的な顔文字が使われている．ブログでは，この顔文字はもちろん，ほとんどの携帯電話でも使用されているような「絵文字」を使用することができる．文字だけでは伝えられない感情を伝え合うことができる．

Warschauer がコンピューターを使用した外国語教育の実践を 100 種類以上もまとめたものなど，今までに，多くのコンピューターを使ったコミュニケーション活動が実践されている [10]．電子メールを使用し海外の人々とメールのやりとりを行ったり，チャットや掲示板 (BBS) を使用したり，またはホームページを作成しそれを発表の場とした発信型の試みなどである [11]．

ブログの最大のメリットは，いわゆるホームページ作成ソフトを使用するよりも，作成・公開・更新といった手順が簡単であることである．これまでは，

自分のウェブサイトを新規に立ち上げようとすると，まずソフトウェアの使用方法を熟知し，場合によってはFTPソフトでファイルをサーバーにアップロードする手順を覚えなければならなかった．しかし，ブログを用いることによって，HTML等の専門知識がなくても気軽に自分のサイトを公開できるようになり，学習者は英語を書くという作業に，より集中することが可能になる．また，今回の取り組みでは，学生はサイトを公開した後も，定期的に更新する必要があるが，この点においても，ブログは容易である．学生の中には，自分のパーソナルコンピュータ(PC)を所有していない者も多いが，ブログサービスを提供しているサイトの多くでは，ウェブブラウザや携帯電話で書き込むことが可能であり，自分のサイトを更新するためにわざわざ特定のPCに向かう必要がない．

そのほかにもデジタルカメラで撮った写真を掲載できるのもブログの特徴である．今回の取り組みでも，沖縄県久米島の海の様子や，友達と食べに行った料理の写真などが掲載されていた．他にも，ブログは簡単な掲示板（BBS）の機能も備えており，読者が記事に対してコメントを残すことが容易に行える．

このように高専生でも手軽に更新できるブログを英語のライティング指導に使用したという実践報告や研究は数少なく，調査してみる価値がある．

2．4 ブログの欠点

一方，ブログのデメリットとして，a)無料でブログサービスを提供しているサイトでは，広告が表示されることが多い，b)テンプレートを使用するため，公開するのが容易である反面，他と似たようなデザインのサイトになりやすい，といった点が挙げられる．しかし，このようなデメリットを補って余りあるメリットをブログは持っている．

一般に，一度に多くのライティングを添削することは，教師にとってこの上なく骨の折れる作業である．小室，他[12]は及川・高山[13]の研究報告から，「ライティングの質（正確さ）を伸ばすには自由英作文を学生に何度も書き直しをさせること，同時に量を向上させるには多くの作文課題を与えるとよい」と報告している．

本研究では，質的な側面よりも量的な面を重視するため，教師が日記上の英文を添削しそれを書き直す作業は行わない．よって，学生らは正確さの欠ける英語を運用し続けることが推測される．しかし，杉本・朝尾[9]は，当時長岡技術科学大学で教えておられた古谷千里教授のE-Mailを使ったライティング活動の発表に言及し，彼女のメールの持つメッセージ性に焦点を当てた活動に注目している．あえてメール上の英語を添削せず，「思い出の映画」などの題材で学生が書いてきたメールに教師がひたすら返信をする．すると，学生も教師も英語の正確さではなく本来のメッセージの内容に関心が移るとしている．ブログを使用した英作文では，送信者と受信者の間で理解可能なやり取りが行われる事で量もしくはfluencyの向上につながる活動になることが期待できる．

3．方法

3．1 夏休みの課題

まず，1カ月以上ある夏季休業中に希望者を対象にし，「Web上のブログに自分の英語日記を更新する」宿題を課した．希望者以外は，*Microsoft Word*®等のワープロソフトを利用し，夏休み中の活動についての日記を書きE-Mailで担当教官に提出することにした．もちろん，ブログを知らない学生も存在した．ブログに興味のない学生やブログの作成方法を知らない学生，そして身近にインターネット環境がない学生は，普通の日記の課題を課した．また，ブログの作成方法は知らないが興味のある学生には，夏休みに入る前の最後の授業を利用してブログの作成方法を教えた．2学年の3学科のうち，大湊の担当する2クラスから27名，茅野の担当するクラスから6名，計33名がブログの課題に取り組んだ．参加率は，25.4%である．なお，茅野の担当する学科の6人と，既にブログの作成方法を知っている者は事前のブログ作成方法の授業には参加しなかった．

ブログ作成方法の授業に参加した学生には，gooブログ(http://blog.goo.ne.jp/index.php)を使用させた．朝尾[14]も勧めていたフリーメール(HotmailやYahoo Mail)があるように，ブログも無料で作成することができ，前章で述べたようにとても手軽で背景や文字のサイズや色，構成，絵文字，写真の貼り付けなど色々なバリエーションを楽しむことができる．

今回のブログでの英語日記の課題は筆者にとっても初めての試みであったが，普段の英作文の課題を出題するときと同様に，学生にはブログの課題に取り組むにあたり以下の3つの条件を出した．

1．夏休みが終了するまでに6回以上英語の日記を更新すること．

2．1回の更新で100語以上書くこと．
3．「何もしなかった」「暇だった」「特になし」「昨日と同じ」または，ダラダラと1日の出来事を全て書くのではなく，1日の中でも特に1つのことにしぼって書くこと．

3．2 アンケート

夏休み終了後に，ブログ英語日記の参加者33名とブログを使用しなかった学生も対象に，30項目にわたってアンケートを行った．本研究ではブログでの英語日記に参加した学生33名のうち，全ての質問項目に回答した31名のみのデータを取り扱うことにした．各質問項目はfive-point Likert-scaleを使用し，各項目をそれぞれ，5を「賛成」，4を「少し賛成」，3を「どちらでもない」(neutral)，2を「少し反対」，1を「反対」として回答してもらった．質問の内容は大きく分けて3つのトピックで構成されており，1つ目は英語学習に関すること，2つ目はブログの使用とその特徴に関すること，3つ目はクラス内の人間関係の構築に関することで作成した．しかし，それぞれの項目のはっきりとした線引きは行っていない（詳細は付録を参照）．

Warschauerがライティングのコミュニケーション活動においてコンピューターを使用することによる学習者の動機付けの調査を行った手法を参考に[15]，それぞれの質問項目の平均値を算出し，全体の仮の平均値を3 (hypothesized neutral score) と仮定し，その仮の平均値3と算出したそれぞれの質問項目の平均値の差を両側検定のt-検定により検討した．その後，仮の平均値3と有意な差がある質問項目を検討してみることとした．以上の30の質問項目に加えて，アンケートの最後にopen-endedの自由回答の欄も設け，夏休み課題に対する感想も求めた．

3．3 期待する結果

（1）英語学習面

課題である英作文の量の多さに圧倒され，抵抗を感じる学生も存在するかも知れないが，それをやり遂げた学生は英語力の向上を感じるのではないだろうか．また，頻繁に和英辞典をひき，語彙の力が伸びた，もしくは表現力がついたと感じたり，長い文章を頻繁に書くことで，英作文をすることへの抵抗がなくなったりすることが予想される．

（2）ブログの使用

ブログについても，もの新しさが反映され，学生たちに受け入れられると思われる．写真を掲載したり，コメントを残す機能を使用したりし，積極的に楽しんでメッセージのやり取りが行われることが期待される．

（3）人間関係

本校の特徴として，学生は新潟県各地から学生が集まっており，長期休暇の時期にはそれぞれの実家に帰省する．普段，学生寮や学校生活で一緒に過ごしていた友達が，遠く離れた地元に帰省し，それぞれお互いの動向が気になるのではなかろうか．ブログは，携帯電話やE-Mailとはまた違ったモードのコミュニケーションを行う場でもある．よって，ブログ上でクラスメート同士の新たな人間関係の構築が期待され，積極的に意見交換の場として互いのブログを読んだりコメントをしたりすることが期待される．

4．結果

以下の表‐1のように，アンケートで得たデータを両側検定のt-検定で検討した結果は，30ある質問項目のうち16項目において，仮の平均値3 (neutral) との差が5％の有意水準で有意であった．英語学習面に関しては質問1，4，6，17，ブログの使用に関する項目では，16，20，21，22，27，28，29，30，人間関係に関する項目では23，25，26で有意差が認められた．

有意差が認められた項目より，以下のように要約することができる．

「今回の夏休みの課題であったブログでの英語日記は，辞書を引く機会も増え，英語力を挙げるのに有効であった．手（鉛筆やペンで）で日記を書くよりもパソコンで日記を打つ方が手軽で，写真を載せたりできる機能があるなどして，楽しく英語の日記を続けることができた．また，自分の書いた日記に対しクラスメートからコメントをもらうことができ，嬉しい気分になった．日記をブログに掲載することは，不特定多数の人間に見られるということだったが，特に抵抗は感じなかった．しかしながら，やはり英語での日記を書くことは難しく，教師に英文の添削をして欲しいと思うことがあった．他のクラスメートのブログを読むことはあまりなく，コメントをしたいとは思わなかった．特にブログをお互いに公開することで，クラスの人間関係が良くなるとは感じず，クラスメートに関しての新たな発見もなかった．夏休みが終わったらブログの更新はしないと思う．」

表-1　アンケート調査の両側検定のt-検定の結果

	$n = 31$	$t(30)$	
質問	t	p	
1	8.234	0.000	＊＊
2	0.895	0.378	*n.s.*
3	0.479	0.635	*n.s.*
4	7.733	0.000	＊＊
5	0.594	0.557	*n.s.*
6	−6.136	0.000	＊＊
7	1.777	0.086	*n.s.*
8	0.441	0.662	*n.s.*
9	−1.489	0.147	*n.s.*
10	1.000	0.325	*n.s.*
11	0.682	0.500	*n.s.*
12	1.063	0.296	*n.s.*
13	−0.924	0.363	*n.s.*
14	−1.000	0.325	*n.s.*
15	−0.162	0.873	*n.s.*
16	3.763	0.001	＊＊
17	5.404	0.000	＊＊
18	−0.441	0.662	*n.s.*
19	−4.792	0.000	＊＊
20	−4.597	0.000	＊＊
21	−2.716	0.011	＊＊
22	−2.087	0.045	＊＊
23	−3.236	0.003	＊＊
24	−0.154	0.879	*n.s.*
25	−2.747	0.010	＊＊
26	−2.528	0.017	＊＊
27	3.258	0.003	＊＊
28	3.165	0.004	＊＊
29	4.894	0.000	＊＊
30	−2.800	0.009	＊＊

＊＊＝ 差が有意であった

n.s. ＝ not significant（有意ではない）

5．議論

5．1 英語学習面

質問１の「英語力を上げるには有効である」と答えた学生が非常に多く（平均値：4.129），困難な課題ではあるが，やりがいを感じる学生が多かったことが推測される．自由回答の欄に注目すると，1 回のエントリーで 100 語の日記をつけることを非常に困難に感じていると回答した学生が多いようであった．この原因として１つには，ライティングの力の問題が考えられる．質問６の結果（平均値：1.871）が示すように，英語で物事を表現することは非常に困難な活動である．もう１つは内容面についての問題が挙げられる．自由回答の中には，特にブログに記載するに値するような活動を夏休み中に行わなかったため，書く内容が無く 100 語は長すぎるというものがあり，書くべき題材探しで苦労した者も少なくなかったようだ．

反対に，「強制的に課題を与えられたほうが，勉強に取り組める」と口頭でコメントする学生も存在し，困難であることは熟知しながらも，最終的に課題を100％近くの学生が提出したことと，「ブログは英語力を上げるには有効である」との回答から推測すれば，彼らは英語学習を肯定的にとらえながらブログでの英作文活動に取り組んでいたのだと考えられる．他にも，「中学校の頃は自分で 1 文書くだけでも大変だったのに，今は日記が書けるようになって成長したところが見れてよかった．」「1 日 100 語の日記を書くには，書ける日と書けない日があり大変だった．書き上げた時は嬉しかった．」と，1 つの大きな課題をやり遂げたことへの「達成感」を感想として述べている学生もいた．

英語学習面で最も大切な要素のひとつとして，学習者の動機付けの問題が存在する．ある課題をやり遂げた「達成感」は動機付けの研究で非常に重要な側面とされている．それは「学習者の自尊感情を守り自身を強める」ことと強く関係しており，Dörnyei はそれを行う手段として教師ができることは，学習者に対して「定期的に成功経験」を経験させることであると提案している [16]．また，島根県広瀬町立比田中学校（当時）の田尻悟郎教諭も，NHK の「わくわく授業」の番組内で，生徒には，「何かが出来る」という自信ではなく，「何かをやった」という自信が大切であると述べていた．前者は，その生徒以上にそれが出来る人が現れると簡単に壊れてしまう自信であるが，後者は崩れることのない自信になる．そう明言されていた．本研究のブログ英作文の課題においても，この「成功経験」を学生に与えることが出来たのではないだろうか．

質問４の「辞書を使う機会が増えた」と答える学生が多かったことからうかがえるように，和英辞典の指導をできる良いチャンスであることが分かった．辞書だけでなく，Web 上にある辞書の活用方法など，英作文の際に活用できるソースの紹介が可能であろう．また，英作文の授業によく見かけられるが，和

英辞典に記載されている語を文脈と沿わない意味で使用したり，教師も聞いたことの無いような難解な語彙を使ったりする学生が多々いる．ブログ上では多くの読み手がいることが前提となるため,「読み手の立場に立って書く」という指導が可能になる．

期待した効果が表れなかったのは,「語彙の力」(質問２：平均値 3.163）や「表現力」（質問５：平均値 3,097),「長い文（1 文の長さ）を書けるようになる」（質問８：平均値 3.065）「長い文章（文の数）を書けるようになった」（質問９：平均値 2.742）と言う項目において，仮の平均値３との有意差が得られなかったことである．語彙，表現力，１文の長さについては，かろうじて仮の平均値よりも高い反応であるが，長い文章（fluency：量）を書くことにやはり抵抗を感じたのであろう．しかし，有意差が得られなかったので，この点に関しては，良い･悪いどちらの方向においても断言はできない．

第 2 章でも述べたが，英作文の正確さを求めるのであれば，質問項目 17 の「書いた英語の間違いを添削して欲しい」という学生の欲求はある意味当然である．より正確な英文を書きたいという願望，または間違った英語を書いているのではないかという不安からこの欲求が生れているではないだろうか．または，文法的な正確さを学習者が追求しすぎるために,このような回答になったのではないだろうか．しかし，夏休みの出来事などのメッセージをクラスメートや教師に伝える目的においては，理解できる程度であればそれ程正確さは重要視されない．ブログを使用して英語力を質と量の両方の面から向上させるには，この添削が必要かどうかはまだ更なる研究の余地がある．

５．２ ブログの使用とその特徴

「手書きよりも，パソコンで日記をつける方が簡単である」という結果は，10 年以上前の先行研究からも明らかとなっている．例えば，Warschauer の調査でも，コンピューターでエッセーを書いたほうが手書きのエッセーよりも早く質のよいものが出来るというアンケート結果が報告されている [15]．

本研究で今後改善すべき点は，クラスメートのブログを読んだり，そこにコメントを残したりすることを必須課題の１つとして指示しなかったことである．アンケート項目 13「課題を書くにあたって，読み手が誰であるかを意識したか」では，有意差はないものの，反対傾向の数値（平均値：2.806）を示した．Web 上に公開するのだから，読み手がいることを当然意識するだろうと認識していたが，この点をより明確に指示していれば，この数値も変わってきたであろう．また，質問項目の 19，20，21 においてもクラスメートのブログをチェックしたりコメントを残したりしなかったという結果が出ている．事前指導がなくても使用するであろうと期待していたのだが，それぞれ平均値 1.903, 2.0, 2.387 と全てにおいてマイナスの方向に有意差が出た．要するに，彼らにとって夏休みの課題としてはクラスメートのブログを読む必要はなく，さらに，教師から宿題としてコメントを読んだり書いたりすることも求められておらず，それは彼らにとっては進んでやる必要の無い，単なる「面倒くさい」作業にすぎなかったのかもしれない．お互いクラスメートであれば，夏休み中は会えないので，友達同士何をしているのかが気にかかり互いのブログを覗くのではないか，というのが筆者の期待であった．しかし，その期待をよそに,学生たちはその行為をしなかったのである．

一方，これと少し矛盾するのだが，彼らは他の人からコメントをもらうことを「嬉しい気分になる」と言っている（質問 29：平均値 3.548）．もらえるコメントは頂くがコメントを返すことはしたくないという，自分勝手ではあるが，興味深い回答であった．コメント機能は，書き手と読み手とのやり取りが行われる唯一の場であり，次回のブログ英作文の活動ではもっと積極的に使用するよう明確に指示し，その上でこの問題については再度検討したい．

また，ブログを用いた課題の新たなメリットが自由回答から明らかになった．それは,「そのつど 1 日ずつ更新すると，夏休みの最後まで宿題をためてしまうことがないので良かった」という感想であった．確かに手書きの日記などの宿題は，最終日にまとめて行いがちである．しかし，ブログを使用することでその「ごまかし」が機能しなくなるのである．言語学習には継続性が重要であり，この点でブログは有効に機能すると思われる．

ブログのもう１つの特徴でもある写真の掲載についての反応であるが,「写真も一緒に載せられるので楽しい」と学生は思っていることが分かった（質問 28：平均値 3.484）．現に，今回ブログの英語日記の宿題に参加した学生の１人は，夏休みの 4 日間に渡る沖縄レポートを毎日更新した．その学生のブログには，沖縄の青い海の写真が掲載され，文字だけの日記に花を添えている感じを受けた．他にも，津南町のひまわり畑の写真を掲載している学生もいた．やはり，このようなきれいな映像も含め，多くの人に見てもらいたいと思いながら取り組める課題として，このブログ英作文活動を再形成していく必要が

ある.

5．3 人間関係

同じクラスの仲間と意見交換をする際に，クラスメート同士の人間関係は，英語力の有無の問題の前に，コミュニケーション活動の運営自体に影響してくる．英語教育に生徒同士の人間関係（リレーション作り）を円滑にするための活動（構成的グループエンカウンターの手法）を取り入れ，参加者のその活動に対する肯定的な反応があった活動報告はいくつか存在する[17) 18) 19)]．今回のブログでの英作文の活動は，学生にとって人と係わり合い，「そのかかわりから得られる所属意識と喜びが新しい英語へのイメージ構築へとつながっていくもの」[17)] になっただろうか．また，「伝えたい」「聞きたい」と思う気持ちを喚起する活動になったのだろうか.

質問７の「書いた日記を友達に見られるのは嫌だ.」は，仮の平均値とは有意差はないが，平均値は 3.355 であり，彼らはそれを見られたくないと思っている傾向にある．それとは反対に，「教員」に見られたり（質問 14：平均値 2.871）不特定多数の人間に見られたりすること（質問 22：平均値 2.581）には抵抗がないようである．まったく面識のない不特定多数の読者や，週に１度の授業でしか会わない教員には公開してもよい日記が，クラスメートになると急に彼らが萎縮してしまうのはなぜであろうか．また，特に不特定多数の読者に関する質問では仮の平均値との差に有意差が見られる.「友人→教員→不特定多数の読者」の順は，その学生を中心に考えると近い存在から遠い存在に移行しているように思える．まだ自分の書いた文章を正直に見せることのできる人間関係が構築されていないことが推測できる.

また，質問 23（平均値：2.387），25（平均値：2.419），26（平均値：2.548）の結果から伺えるのは，今回のブログでの活動を通して友達同士の新たな発見や，今までに話したことのなかったクラスメートについて知る機会がなかったことが伺える.

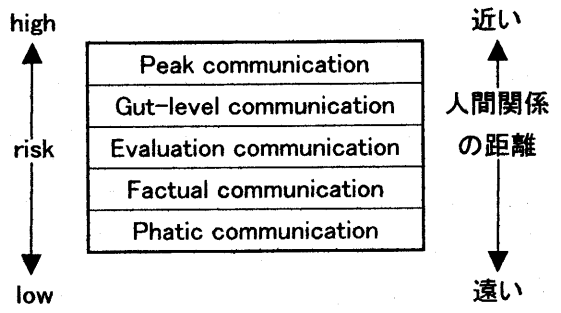

図-1　Powell, J.の The Levels of Communication[20)]
＊図右の「人間関係の距離」は，筆者が加筆したものである.

このブログでの英作文活動を通して，新たな人間関係の構築を期待したわけであるが，公開したブログをお互いに読みあい，共通点を探したり，すでに知っている友達の知らなかった部分を見つけたりする活動までに至っていなかった．その理由を推測すると，先ず，「日記を書き，他の人に見てもらう」という活動が，Powell[20)] の言う Level of Communication（LC:図－１参照）のより高いレベルに位置する活動であることがうかがえる.

LC の１番下のレベルは Phatic communication で，“Hello.” や “How are you?” などの「あいさつ」レベルである．2 番目が “Factual communication” で，「事実」や「行動，状態」をありのまま描写するレベルである．第 3 レベルは，“Evaluative communication” で，「意見」を述べるレベルである．この段階から自分の発言に少しずつ「リスク」を負うようになってくる．第 4 のレベルは “Gut-level communication” で，この段階からは，“I'm so frustrated with you!” など，自分の感情を伝えることのできるレベルになる．そして，一番上の第 5 のレベルが，“Peak Level Communication” と呼ばれるものである．このレベルでは話者同士が同じ感情を共有する段階で，友達や親子でも達することが稀なレベルである．日記を書くという活動は，自己開示に直接つながる活動であり，LC で言うところの Gut-level に相当する．いきなりそのような課題を与えられても，教師が期待しているようには自己開示を行えないのが現実である.

したがって，いきなり直接的な自己開示を求めるのではなく，まずは Factual のレベルから，徐々に Evaluation, Gut-level と上げ，学生に気づかないうちに深い理解をさせるような取り組みが行われなければならない．そのためには，テーマを決めての書き込みを行い，そのテーマについて述べられた意見に賛成する者や反対する者，また自分の意見と他人の意見を比べそこに違いや同じであることを発見し，それを拠点とした「コミュニティー」が形成され，そこから徐々に心を許せる集団作りになっていくというプロセスが必要ではないだろうか.

6．結論

今回の試みでは，ブログに英語日記をつけることへの「達成感」から，学生に「成功体験」をさせ，

彼らの自身につなげることができた．また，英語日記を書かせることで，辞書の使用回数が増えることも明らかとなった．今後の研究の課題としては，語彙力の伸びや文の長さなど，実際学生の英作文の言語使用についてはこの研究ではまったく触れていない．語彙力の伸びを検証するには，学生の意識をアンケート調査するだけでなく，実際のテキストを分析し，または学生に事前・事後のテストを課し色々な側面からの英語力の変化の側面に焦点を当てるなど，使用された英語を実際に検証する必要が残っている．

また，ブログを使用して英語の日記活動を行った学生と，ワープロ機能だけを使用して行った学生のアウトプット・ライティングの作品の質的な，もしくは量的な検討も行われるべきである．しかし，杉本・朝尾[9]も E-Mail 交換の英語力への影響について述べているように，純粋に E-Mail 交換やブログでのライティング活動が学生の英語力に影響しているかどうか断言することは難しい．その理由は，学生は，学期中であれば普段の授業があり，夏休みであっても他の英語の宿題があったり，学生によっては塾や英会話教室に通ったり，英検の勉強を独学で行っていたり，テレビやラジオの英語講座で学習している可能性が大いにありうるからである．ブログでのライティング活動を調査する際も，同じことが言えるであろう．

今回の取り組みで，よりよい人間関係を作ろうと目指したことも，ブログの課題だけでは解決しないだろうという結論に至った．ブログを使って英作文をする際には，いきなり感情の開示を求めるのではなく，段階を経て，徐々に「事実」のレベルから，テーマを設けて「意見」そして「感情」の開示のレベルへと上げていく必要があること分かった．また，この段階も１つのステップにすぎず，このブログという意見交換の場で自分と同じ考えや違う考えの人に出会い，その中から新たな集団を形成するきっかけになる活動なのかもしれない．まだまだ，この面についても更なる研究が必要である．

付録

	質問項目	平均値
1	今回の夏休みの課題は，英語力を挙げるためには有効である．	4.129 ＊＊
2	今回の夏休みの課題を通して，英語の語彙力（単語の力）が伸びた．	3.161
3	日記をつけると言う作業は，日本語であっても苦手である．	3.129
4	今回の夏休みの課題を通して，辞書をひく機会が増えた．	4.097 ＊＊
5	今回の夏休みの課題を通して，英語の表現力が付いた．	3.097
6	日本語では表現しにくいことも，英語で書くと表現しやすかった．	1.871 ＊＊
7	書いた日記を友達に読まれるのは嫌だ．	3.355
8	今回の夏休みの課題を通して，英語で長い文(1 文を長く)書けるようになった．	3.065
9	今回の夏休みの課題を通して，長い文章を楽に書けるようになった．（文の数が増えた）	2.742
10	課題に取り組む前よりも，取り組んだ後の方が英語で文章を書くことに抵抗が無くなった．	3.194
11	課題に取り組む前よりも，取り組んだ後の方が英語でより簡単に自分の言いたいことを表現できるようになった．	3.097
12	他の人が書いている日記を読んでみたいと思う．	3.194
13	課題を書くに当たって，読み手が誰であるかを意識して書いた．	2.806
14	書いた日記を教員に読まれるのは嫌だ．	2.871
15	今回の夏休みの課題は，楽しみながら行うことができた．	2.968
16	手書きで日記を書くよりも，パソコン（ワープロ）で日記をつける方が簡単である．	3.839 ＊＊
17	書いた英語の間違いを全て添削して欲しい．	3.935 ＊＊
18	英語で書く作業が好きになった．	2.935
19	他のクラスメートのブログ・サイトをよくのぞいていた．	1.903 ＊＊
20	他のクラスメートのブログのコメントをよく読んでいた．	2.000 ＊＊
21	他のクラスメートのブログにコメン	2.387

	トを書きたいと思った.	＊＊
22	ブログに日記を載せることは，不特定多数の人間に日記を見られるので抵抗があった.	2.581 ＊＊
23	コメントのシステムは，夏休みでもクラスメートと会話ができ，友達とつながっている感じが味わえた.	2.387 ＊＊
24	夏休みにクラスメートが何をしているのかが気になった.	2.968
25	夏休みの課題を通じて，クラスメートについて新たな発見があった.	2.419 ＊＊
26	ブログを公開することで，友達との人間関係がより良いものになった.	2.548 ＊＊
27	単に日記を書くよりも，ブログの方が楽しい.	3.581 ＊＊
28	ブログでは，写真を一緒に載せることができるので楽しめる.	3.484 ＊＊
29	ブログでコメントをもらうと，嬉しい気分になる.	3.548 ＊＊
30	夏休みが終わったこれからもブログの更新をしていきたい.	2.452 ＊＊

** = significantly different from a hypothetically neutral score of 3 at p. < 0.5

参考文献

1) 文部科学省：「学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」Retrieved January 13th, 2006 from the World Wide Web: http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/17/08/05080101.htm

2) JACET SLA 研究会：『文献から見る第2言語習得研究』開拓社，2005.

3) Long, M.: Native speaker/non-native speaker conversation and the negotiation of Comprehensible input. *Applied Linguistics, 4(2),* 126-41, 1983.

4) Long, M.: The role of the linguistic environment in second language acquisition. In W. Ritchie and T. Bhatia (Eds.), *Handbook of Second Language Acquisition* (pp. 413-68). San Diego: Academic Press, 1996.

5) Lightbown, P. and Spada, N.: *How Languages are Learned* (Revised Ed.). Oxford: Oxford University Press, 1999.

6) 井ノ森　高詩：「静と動で演出するポストライティング活動」『英語教育』54(6)，大修館書店，2005.

7) Moffett, J. and Wagner, B. J.: *Student-Centered Language Arts, K-12.* Portsmouth, NH. Boynton/Cook Publisher Heinemann. 1992.

8) 「ブログ」『フリー百科事典　ウィキペディア日本語版』(http://ja.wikipedia.org/). 2006年1月16日13時（日本時間）現在での最新版を取得.

9) 杉本　卓・朝尾　幸次郎：『インターネットを活かした英語教育』大修館書店, 2002.

10) Warschauer, M.: *Virtual Connections.* Honolulu, HI: Second Language Teaching & Curriculum Center, 1996.

11) 若尾　彰子：「ホームページプロジェクトによる発信型の英作文指導」『長岡工業高等専門学校研究紀要』33(2)，pp. 75-83，1997.

12) 小室　俊明(編)：『英語ライティング論』河源社，2001.

13) 及川　賢・高山　芳樹：「自由英作文指導における error feedback と revision の効果」『関東甲信越英語教育学会研究紀要』，14：pp. 41-54，2000.

14) 朝尾　幸次郎：「フリーメールを使おう」『英語教育』48(15)，pp.62-3，2000.

15) Warschauer, M.: Motivational Aspects of Using Computers for Writing Communication. In M. Warschauer (Ed.), *Telecollaboration in Foreign Language Learning*: 29-46. Honolulu, HI: Second Language Teaching & Curriculum Center. Retrieved April 2nd, 2003 from the World Wide Web: http://nflrc.hawaii.edu/Networks/NW01/NW01.html, 1996.8)

16) Dörnyei, Z.: *Motivational Strategies in the Language Classroom. Cambridge*: Cambridge University Press, 2001. (米山　朝二・関　昭典（訳）『動機づけを高める英語指導ストラテジー35』大修館書店, 2005)

17) 伊藤　明美：「英語教育における構成的グループ・エンカウンターの試み」『藤女子大学・藤女子短期大学紀要』35，pp.43-70，1997.

18) 和田　修・山田　千秋：「構成的グループ・エンカウンターの英語授業への適用」『東筑紫短期大学研究紀要』33，pp.149-156，2002.

19) 大湊　佳宏：「人と人とのつながりを意識した英語教育の試み」『長岡工業高等専門学校研究紀要』41(2), pp.19-27，2005.

20) Powell, J.: *Why am I afraid to tell you who I am?* Niles, IL: Argus Communication, 1969.

(2006. 1. 24. 受付)